

平成21年度 横浜市保土ヶ谷区生活支援センター事業報告

保土ヶ谷区生活支援センターは、単に精神障害者が地域社会で安心して自立した生活を送るために必要なサービスを提供することだけにとどまらず、年齢や障害の種別、障害の有無に関わらず、精神保健福祉の向上を担う「地域の中核拠点」をめざし、事業活動を行ってきた。

A 施設概要

- (ア)設置主体 横浜市
- (イ)運営主体 社会福祉法人 横浜市社会事業協会
- (ウ)所在地 横浜市保土ヶ谷区川辺町5-11
- (エ)建物 鉄筋コンクリート造 4階建の4階部分
- (オ)延床面積 572.14㎡
- (カ)開所年月日 平成15年2月2日
- (キ)休館日 毎月第4月曜日
- (ク)開館時間 午前9時から午後9時
- (ケ)指定管理者の指定 平成18年4月1日から平成23年3月31日まで
- (コ)職員配置 10名(常勤職員5名、非常勤職員5名)
協力医:2名 調理アルバイト7名

B 事業概要

- (ア) 地域活動支援センター事業
- (イ) 相談支援事業
- (ウ) 自立生活アシスタント派遣事業
- (エ) 地域支援事業

C 施設の運営

- (ア)地域で生活する精神障害者の生活に密着した相談や疾病、制度利用など、一人ひとりの利用者に沿ってきめ細かな支援を行った。

【センター登録者数】

H21年度	810名	男	536名
		女	274名
H20年度	822名	男	553名
		女	269名

- (イ) 利用者の安定した地域生活の継続のため、ご自宅や日中活動先等への訪問を積極的に行った。また、必要に応じて通院、銀行、日中活動先に同行するなど利用者や同居する家族への居宅生活を支えた。
- (ウ) ボランティアの育成
保土ヶ谷区福祉保健センター、保土ヶ谷区社会福祉協議会とボランティア講座を共催し、ボランティアの育成と啓発に協力した。また、各種サークル、イベント等へのボランティア調整を行い、定期的な活動の場として協力して頂きつつ、相互理解することができた。
- (エ) 家族支援
保土ヶ谷区家族会「たちばな会」の活動を支援し、家族定例会への出席を行い、情報提供や情報交換したり、合同バスハイクを実施したりするなど、孤立感の解消や相互理解に努めた。また、疲弊したり問題を抱えた家族への早期発見に努め、関係機関や関係団体への橋渡しを行い、家族の相談窓口としても機能を果たした。
区福祉保健センターとの共催で「家族の癒し」をテーマに、家族会入会の有無に関わらず、家族を対象とした家族教室を開催し、多くの参加をいただいた。
- (オ) 出張相談を区内まんべんなく定期的に行い、センターには来ることのできない利用者や、家族も気軽に使える居場所・相談の場を設けた。そこから、センター利用につながったり、関係機関・関係団体からの紹介で相談に来られるケースも毎回見受けられ、少しずつではあるが認知されてきている。
また、高齢の家族に対して、地域ケアプラザと連携を取り合い、家族のサービス利用につながった。
- (カ) 関係団体との協働
日頃から保健・福祉・医療等の他機関との連携ネットワーク構築に取り組んだ。区内作業所やボランティアグループとの共催で、クリスマス会を実施し交流を図ったり、区内のケアプラザに出向き、包括支援センターや介護支援専門員へセンターの紹介や協働の可能性などを意見交換し、地域で生活する精神障害者一人一人に合った支援を、チームで検討し展開した。
- (キ) 地域との交流
恒例となった市立桜ヶ丘高校茶道部を交えてのお茶会の催しは、多くの障害者と学生との交流の場として、また、福祉教育の一環としても有意義な時間となっている。区民祭りの参加では、地域の方へ普及・啓発の機会を持つことができた。また、ソフトボールは広く地域の作業所や在宅の精神障害者を集め、毎月実施日を待たれる行事となっている。

【地域交流事業】

年度	事業数	実施回数	参加人員
H21年度	13	25回	3342名
H20年度	13	18回	1916名

(ク) 苦情解決

利用者からの苦情や相談について、毎月1回、第三者委員と苦情解決責任者(所長)及び関連職員が解決にあたり、結果を全職員で共有し、サービスの向上に努めた。

第三者委員 石渡和実:東洋英和女学院大学教授

田村綾子:日本精神保健福祉士会常任理事

【21年度の苦情件数とおもな内容】

年度	苦情/相談件数	主な内容
H21年度	苦情 16件 (内 15件はセンターのみ で解決) 相談 9件	他利用者の衛生面や言動、職員の対応について等 生活の中での不安、障害や病気の症状、就労について等

* 苦情・相談がない場合は、フロアにて利用者との交流を図っていただいた。

(ケ) 事故事例・ヒヤリハット事例

事故事例 2件:カードキーによる施錠忘れ

ヒヤリハット事例 12件:炊飯器のスイッチ押し忘れ、鍵のしまい忘れ、食事の注文票記入忘れ等

D 利用者へのサービス

(ア) 日常生活相談

住居や就労・公的制度の利用に関する事など、日常生活に関する相談に対して電話や面接により利用者のニーズを明確にして適切に対応した。また、嘱託医による相談(予約制)を毎月2回行った。

【センター利用状況（単位：人）】

		平成21年度			平成20年度		
		男性	女性	計	男性	女性	計
来場者数	実数	9523	3347	12870	9281	3820	13101
電話相談件数	実数	8211	5296	13507	7858	5518	13376
面接相談件数	実数	1285	735	2020	1289	452	1741
同行訪問数	実数	41	43	84	32	28	60
非構造面接・その他	実数	3130	1642	4772	3062	1963	5025

(イ) 食事・入浴・洗濯サービス

毎日の夕食や入浴、洗濯サービスを提供することで、安定した生活のリズムを作り、当事者同士の交流の場ともなっている。

(ウ) 生活情報の提供・インターネットサービス

社会生活の経験が少なく、生活上必要な情報を得られにくい利用者に、センター便りや掲示板等で情報を提供した。

ホームページを適宜更新し、リアルタイムに情報を提供した。

【各種サービスの利用状況】

		平成21年度			平成20年度		
		男性	女性	計	男性	女性	計
夕食サービス	実数	5947	2278	8225	6126	3084	9210
入浴サービス	実数	241	84	325	541	94	635
洗濯サービス	実数	140	59	199	159	65	224
インターネットサービス	実数	91	44	135	97	26	123

(エ) 自主グループ活動の支援

メンバーミーティング、将棋サークル、アートサークル、パソコンサロン、麻雀サークル、シネマデイ等、その他適宜利用者の意見や要望を取り入れながら、毎月実

施している。

【自主グループ事業実施回数】

年度	事業数	実施回数	参加人員
H21年度	26	122回	1085名
H20年度	25	106回	889名

(オ) センター行事実施状況

- 4月 花見(帷子川沿い散策)
- 5月 スポーツデイ
- 6月 お茶会(市立桜ヶ丘高校茶道部の参加による。)
- 7月 バスハイク(いも掘りの予定であったが、悪天候のため中止)
- 8月 お盆イベント週刊
- 9月 カラオケ box
- 10月 区民祭り参加
- 11月 音楽会
- 12月 クリスマス会(ほどがやネットワークの会、ボランティアグループ窓との共催)
- 1月 新年会
- 2月 バスハイク 家族会との共催(油壺マリンパーク・津久井いちご狩り)
- 3月 ボーリング(ラ・ポール)

(カ) 利用者の声の反映

センター職員と利用者との意見交換の場としてメンバーミーティングを実施し、ご意見ボックスに寄せられた様々な声や意見をセンターの運営に反映させた。

主な内容: フリースペースの利用に関する提案、食事サービスに関する提案、対人関係の不満など

E 自立生活アシスタント事業

長期にわたり日常生活や社会生活に相当な制限を受けている精神障害者や、突然一人になってしまった方などを対象に、より身近な存在として顔の見える関係づくりを行い、地域の社会資源と繋げていった。障害特性を踏まえ、個人の人権に配慮しながら社会参加の支援を行った。

【自立生活アシスタント事業(単位:人)】

支援対象者数(登録)	2836
支援対象者(未登録)	470
面接相談(来所)	779
電話相談	2108
訪問	591
外出付き添い等	219
文書	42
支援合計	3729

(人数は延べ)

F 職員研修

- (ア) 職員の資質向上のため、各種団体が実施する研修に職員を派遣し、すべての職員が必要な研鑽を積めるように配慮した。40件の研修に対し、延べ72名が参加した。
- (イ) 事業所内研修として「個人情報保護」に関する研修を実施し、個人情報取扱特記事項を遵守し個人情報を適切に取り扱うことを誓約した。
- (ウ) 相談支援従事者講習に2名の職員を参加させた。

平成21年度
横浜市精神障害者生活支援センター指定管理料決算書

施設名:横浜市保土ヶ谷区生活支援センター
運営法人:社会福祉法人 横浜市社会事業協会

科目	予算額	決算額	差引増減	内訳・説明等
人件費	40,765,000	39,906,296	858,704	
職員給与	30,830,500	29,863,797	966,703	常勤職員(所長含む)4名 非常勤職員3名 ※本給、各種手当、賞与含む
賃金	4,305,420	4,081,719	223,701	アルバイト(調理):1,227,480円 臨時職員(無休化対応):2,370,399円 嘱託医:483,840円
共済費	5,629,080	5,960,780	-331,700	法定福利費:3,997,867円 労務厚生費:1,962,913円 ・退職給与引当金:859,860円 ・保険衛生費:127,257円 ・福利厚生費:42,000円 ・労務管理費:933,796円
施設管理費	5,961,000	4,641,716	1,319,284	
光熱水費	3,446,000	2,370,176	1,075,824	水道:882,515円 ガス:584,844円 電気:964,857円
庁舎管理・委託料	2,515,000	2,271,540	243,460	冷温水保守点検:281,074円 定期清掃:1,039,500円 建物管理業務委託料:381,890円 機械警備:245,856円 廃棄物処理:64,386円 害虫駆除等:258,834円
入浴・洗濯サービス等 実費徴収額光熱費 充当分		62,040		入浴サービス料:32,500円 洗濯サービス料:19,900円 インターネットサービス料:9,640円
運営費	2,989,000	2,490,336	498,664	
旅費	120,000	114,980	5,020	一般旅費
一般物品	650,000	497,718	152,282	事務用消耗品費:358,458円 各種機関紙等:139,260円
印刷製本費	200,000	92,821	107,179	センター便り等印刷費
修繕費	100,000	315,464	-215,464	建物修理等
役務費	371,000	440,708	-69,708	切手代:136,780円(その他の通信運搬費) 電話料:281,928円 租税公課:22,000円
借料損費	410,000	384,930	25,070	複写機リース等:233,730円 ネットワーク保守:151,200円
備品費	600,000	241,285	358,715	器具什器費:39,770円 行事等:205,151円
施設賠償保健	188,000	185,000	3,000	全精社協総合保障制度C1タイプ
雑費	350,000	217,430	132,570	年会費:62,000円 手数料:85,199円 雑費等:70,231円
				H21年度戻入金額
総計	49,715,000	47,038,348	2,676,652	858,704